

【市長あいさつ】 平成23年度 坂東市行政改革懇談会（第1回）

本日は、平成23年度、第1回目の坂東市行政改革懇談会を開催いたしましたところ、お忙しい中をご出席していただきまして誠にありがとうございます。

行政改革と言いますと、どこの市町村でも職員の定数を削減するのが通例ですが、職員の数だけを減らすというのではなくて、やはり根幹には、どこの自治体においても財政が厳しい中でスリム化を図って行こうというのが主流的な考え方です。

私はそういう意味ではなくて、職員の数というのは別に減らさなくてもお金が入ってくるような事をやっていけばいいという考え方を持っています。機構の見直しだとかそういうものをやりながら、より効率的な行政を進めていくためにはどうしたらいいのか、ということが一番の念頭にありますので、そういうものを実施していきたいと常に考えております。

今回、東日本大震災におきまして、世の中がガラッと変わってきております。被災地周辺の自治体もそうですけれど、被災地から職員の募集をするとか、今までは減少傾向にあったものを、救済という意味を含めて増やしていく等、色々な事をやっておりますけれど、我々もお互いに助け合うという気持ちを出していかなければならないと思っております。

坂東市もこれからの色々な事業の中で、街の中ではプリオさんが無くなったことは、皆様方もご承知だと思いますが、また今回、大塚酒造さんが辞められるということになりますと、この地域は商業地域になっていきますが、商業地域の中に大きな空間が生まれてきます。

以前、ビクターの前に非常に大きな空間がありましたが、住宅開発業者に依りまして、ほとんどが住宅化してしまいました。商業地域の中に住宅があつて悪いという事ではないですけれど、商業地域には商業地域の役割があるのではないかという風に思います。こういう大きな空間をどうしていくか、当市のこれからの大きな課題の一つになってまいります。

また、来月の20日過ぎには、市民の方に応募していただいた市役所建設検討委員会のスタートを切りたいと思っております。市民からの公募の方が30名ですが、応募者数が100名を超えましたので、抽選という形で選ば

せていただきました。更にまた、市民を代表する団体の方15名を追加させていただきます。総勢45名体制で将来の坂東市役所をどうしていくか、場所的な問題、あるいはまた建設時期的な問題、そういうものも含めて皆様方の意見をいただこうという風に思っております。

また、先程申し上げました財政について、これから将来に渡って財政をどう確立していくかが非常に大きな要素となってまいります。市でも、更にまた、工業団地の計画をして、少なくとも工業出荷額5千億円を目指して努力していこうと考えております。工業出荷額は、坂東市全体で2千6百億円、お隣の常総市では4千8百億円、古河市においては5千3百億円となっております、近隣では坂東市の倍あるわけです。雇用あるいは財政の確立、そういうものを含めて、これから色んな市の事業、大変大きな問題が目白押しになって、しかしクリアしていかなければならない大きな課題だろうという風に思っております。

行政改革懇談会の委員の皆様方には、本当にこの坂東市をどういう風にして行ったら一番いいのか、機構の面も含めて、更にご協議いただければ大変有難いと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は、本当にお忙しい中をご出席いただきまして、心から厚く御礼申し上げます。